

NEWSLETTER



大阪女学院大学 大阪女学院短期大学

教 員 養 成 セ ン タ ー

● 巻頭エッセイ「絆」..... 1	● 第3回～第6回勉強会報告 2, 3
● 教員免許状更新講習追加実施案内 1	● 授業の玉手箱 「ニュアンスの活用」..... 4
● 特集：「英語の教え方教室」..... 2	● 書籍紹介 『英語リーディングの科学「読めたつもり」の謎を解く』..... 4

巻頭
エッセイ

絆

夫 明美

昨年末、清水寺を舞台にして、2010年「今年の漢字」が発表されました。2010年は野菜を高騰させた記録的な猛暑の影響か、「暑」が選ばれました。全国学生グループアンケートで学生に選ばれた一字は「迷」、就活に迷う学生の姿が目につきます。ちなみに菅総理が選んだ一字は「行」でした。

さて、国内・国外での大きな出来事を振り返ると、私には「絆」という一字に象徴されるものが強く印象に残ったように思います。初夏の日本をサムライブルーに染めた日本代表選手、チリの鉱山で2ヶ月あまりも地下に閉じ込められたあと無事生還された作業員の方々。いずれもチームの固い結束、それを取り囲む人々との間の強い結びつきを感じずにはおれませんでした。その反面、「無縁社会」や「すべり台社会」という言葉に象徴されるように、人と人との結びつきや人間と社会の結びつきが弱くて薄いものになりつつある厳しい社会状況も現代の日本を取り巻いている様子です。「絆」を少し異なる観点から考えてみましょう。

少し前の話になりますが、夏休みに古い本棚を整理していた時、数年前に何度も読み返した一冊の本を再び手にすることがありました。気に入った箇所をメモ書きしていたものも残っていたので、再び読み返してみました。過去に心に響いた箇所は依然として強い感動をもたらすものでしたが、以前とは異なる解釈を持ったり、昔は気づけなかった箇所が心に響いてくるものがありました。「不思議だな」と思うと同時に、自分の中に「変わる部分と変わらない部分」があるのも面白いことだと思いました。

同じようなことが、10年ぶりに訪れた美術館で、以前興味をもって眺めた絵画を再び見たときにも起こりました。学生時代の私にはロマンチックな印象だけが鮮やかにうつつたので、今回も気分の高揚があるのではないかと胸を高ぶらせながら、展示室へと足を速めました。再びその絵を目の前にした時に、再会を喜ぶ気持ちもありましたが、以前は全く思いもしなかった一抹の寂しさや薄い倦怠のようなものが、絵の中に描かれているようにうつりました。その時にも、年齢や経験を経るにつれて変わる部分と変わらない部分があることが面白いものだと思いました。そこには時間を越えて過去の自分とコミュニケーションしているような興味深さがありました。次にその絵を目にするときはどのような印象を持つのかも興味深いところです。

絆というものは人と人之間だけに限られるものでも、時間軸上のある一点だけに限られるものではないのかもしれない、と書物や芸術作品に改めて教えられた2010年でした。

大阪女学院大学

平成22年度「教員免許状更新講習」追加講習

「コミュニケーション・ルール：その基盤となる概念を考える」

平成23年3月12日(土) 9:20～16:50

- ・ ディベートの考え方—論理的に説得することの意味とそれに必要なこと—
担当：中井 弘一 大阪女学院大学 教授
- ・ 異文化間コミュニケーションの考え方—違いを理解し表現すること—
担当：東條 加寿子 大阪女学院大学 教授

社会や経済のグローバル化の急速な進展に伴い、単に受信した外国語を理解することにとどまらず、コミュニケーションの中で自らの考えなどを相手に伝えるための「発信力」の育成がより重要となっている。ただそれには、やみくもに発信するのではなく、それぞれの言語のコミュニケーションを行うためのルールを身に付けておく必要がある。

そうした能力の開発のため、ディベートというコミュニケーション活動が昨今よく取り上げられている。本講座でも一つのテーマとして、「ディベートの考え方—論理的に説得することの意味とそれに必要なこと—」を取り上げ、「ディベートとは何か」という基本概念の理解をもとに「ディベートは面白い」という興味関心の喚起を促す指導を考える。

コミュニケーション・ルールのもう一つのテーマとして、「異文化間コミュニケーションの考え方—違いを理解し表現すること—」を取り上げる。英語でのコミュニケーションには異文化の視点が不可欠である。この講習では、異文化間コミュニケーションの諸要素(高・低コンテクスト、active listening, assertive communication 等々)を取り入れた議論・会話活動・メディア理解に取り組む。

○ 定員・対象

中学校英語科教員・高等学校英語科教員 計30名
(定員を超える場合は申し込み先着順にて締め切り)

○ 受講申し込み：

平成23年1月17日(月)より平成23年2月28日(月)までに大阪女学院大学 教員養成センター「教員免許状更新講習」担当へお申し込みください。申し込みされた方には、本学より受理確認メールをお送りします。申し込み受理確認後に、改めて受講申請書を配付します。

○ 受講料

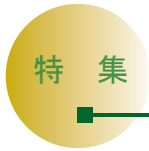
3,000円 (所定の口座へ振り込み)

教員養成センター「教員免許状更新講習」担当：田中 礼子
電話：06-6761-9371 Fax：06-6761-9373

E-mail: ttc @ wilmina.ac.jp

参照 URL:

<http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc/menkyo-koushu2010>



教員養成センター 勉強会 「英語の教え方教室」

第3回～第6回

報告：中井 弘一



－ みんなで話し合ってみませんか

英語授業でのちょっとした工夫を－

第3回勉強会

7月10日(土)

■ 授業研究デザイン・授業自己診断シート

大阪女学院大学 中井 弘一

SELHi 校の公開授業ビデオや中学校の教育実習の授業ビデオなどのいくつかの場面を見ながら、気づいたことを自由にメモをとり、それらのメモの記録をもとに論点を決めて授業内容を参加者で検討する。その際、秋田県総合教育センターで平成20年に開発された授業研究デザインシートや高知県の授業自己診断シートなどを紹介し、日頃の授業で学習課題が設定されているか、授業進行で生徒が主体になっているかなどの診断方法をもとに自己研鑽においてどのように活用するかを考えた。



秋田県総合教育センター授業研究デザインシート

授業評価は、「授業デザイン力」「授業展開力」を reflect することで、

「授業デザイン」

- ・ 授業に対する思い：授業に対するひたむきさ、情熱
- ・ 学習者の把握：学習レベルの把握、応じた教材
- ・ 目標の設定：授業のねらい、めあて、到達目標がわかりやすい
- ・ 授業の構想：教材の読み込み、授業内容の構成、学習形態・学習方法の設定
- ・ 授業の設計：授業過程の俯瞰、補助教材、活動の組み立て

「授業展開」

- ・ コミュニケーション
 - * 話しかけ：説明・解説、助言・指導、例示、モデルリーディング、発問、指示、進行、応答、ことば使い
 - * 態度・パフォーマンス：ジェスチャー、視線、表情、演技
- ・ ポジション
 - * 教室内での立ち位置
 - * 授業内容に関わりない言動への対応
- ・ 教材・教具
 - * 板書：内容構成と選択、記載表現
 - * 資料・機器の使用：補助教材・補助プリントの使用、ITなどの教育機器使用

などを評価対象として、自分の授業を振り返ったり、教員仲間の授業を振り返ったりすることが大切である。

大阪女学院中学校での教育実習 2年生、奈良県立登美ヶ丘高等学校 SELHi 公開授業 2年生の授業ビデオを観て、それぞれの授業について話し合った。

中学校の例では、

- ・ 板書にきれいな筆記体が使われていたことに皆がびっくり
 - ・ 5回以上朗読させることに一定の評価
 - ・ 板書時間がかかりすぎ
 - ・ 説明が不十分なところや説明しすぎではないかという意見が聞かれた。
- 高等学校の例では
- ・ 先生の表情がよい
 - ・ 一生懸命である。あれだけの準備をするのは大変である。
 - ・ フローチャート(マップのようなもの)については様々な意見・形式をもう少し提示してみてもよい。自由にやらせる方がよい。
 - ・ 授業は英語で行われているが、日本語を補助と与えている。日本語を使うと結果的に生徒は英問に対しても日本語で答えるようになるのではないかと。片言の日本語に抑えると、英語のイメージが残るのでは。Silent periodを考え、辛抱強く待つ必要も。生徒が日本語で返してきたら、先生はそれをさりげなく英語に直し反復することが大切で、そうすることで生徒はそう表現するのかと意識する。

参加していた学生が、高校時代を振り返り、「英語の授業で、和訳がなくて英語が分かるのですか。」と尋ねた素朴な問いかけに、和訳先渡し方式、部分訳方式、要点整理方式などその効果なども話し合った。英語教育永遠のテーマだろう。学習者のレベルにもよるので、all or nothingの議論はできない。登美ヶ丘高校の先生は、和訳はしない授業であった。それでも十分テキスト内容は理解できる進行であった。

第4回勉強会

10月16日(土)

■ 「英語の授業は英語で行う」について考えるべきこと

大阪女学院大学 中井 弘一



高等学校の新学習指導要領では、「英語に関する各科目については、その特質にかんがみ、生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする。その際、生徒の理解の程度に応じた英語を用いるよう十分配慮するものとする」と明記された。この指導方針は、学校現場だけでなく、マスコミでも大きく取り上げられ、「現場を知らない暴挙」「是非押し進めるべきだ」と賛否両論が渦巻いている。「英語で授業したら英語ができるのか」について、資料を基に参加者で話し合った。



第5回勉強会

11月20日(土)

■ 私の授業実践

門真市立第五中学校 北川 早衣子 教諭



チャンツを使った音読活動に対しては、元気よく声を出す生徒もおり、それに伴って消極的な生徒も声をだすことができ比較的積極的に取り組むこともあるが、英語を正しく「書く」ことに対しては苦手意識が根強く、声に出して言えるのに書けないという状況が担当クラスにある。学力面に不安があったり学習意欲に欠けたりする生徒も見られる中で、自分が「お姉さん」というより「お母さん」になったような気持ちで生徒に接し、日々の授業に取り組んでおられる様子を紹介していただき、参加者で話し合った。

○ チャンツ

- ・NHK出版の『チャンツで楽習 決定版』を授業でウォームアップに使っている。
- ・稲岡章代氏紹介のチャンツを手で机などを叩いてリズムをとりながら、



Where, where? Where shall we go? To the park? To the sea? Let's go to the sea!
When, when? When shall we go? On Sunday? On Monday? Let's go on Sunday!!!
How, how? How shall we go? By bike? By car? Let's go by bike!
Let's go to the sea by bike!
声を出して読むと、みんなが一生懸命やる。自分でリズムを取ることが生徒にとって楽しいようである。

○ ノートづくり

- ・大切な作業・活動と捉えている
- ・一般的には予習でのノートづくりが求められるが、なかなか行き届かないので授業中にノートづくりさせることにしている。
- ・また、うまくノートづくりができなかったりする生徒もいるので、穴埋めなど問題を組み入れたB5サイズ1枚のプリントを作成し、それに従事させることで達成感を持たせる。

○ スピーキングでの工夫 (電話会話)

- ・教室と廊下で教室の戸を隔てて、相手が見えない状態で会話練習。大きな声でやりとりをする効果があった。
- ・離れた教室で授業を行っているので、こうした活動ができる。
- ・相手の見えない言語活動に生徒はやる気を出していた。
- ・LL教室を使える場合は、インカムで離れた生徒同士の対話をさせることができる。

○ 一クラス二展開

- ・1年生は一斉授業で、2年、3年生で2展開クラス分け授業を行っている。授業内容が高度になるので、1年生で少人数展開するより、2・3年生で少人数展開することの方が効果的である。
- ・クラス人数が少ないと課題を多く考える必要があるのではないか。多くの活動を用意することが必要となる。
- ・少人数のクラスでは、集中力、教員との距離感を考え、机をコの字型に並べて授業を行う中学校もある。

○ グループ活動は有効か

- ・peer pressure はよい意味にも悪い意味にも働く。発言力のある生徒がやる気になれば効果があるが、やる気をなくせば他の生徒も追随する傾向がある。
- ・異なるグループのメンバーになるとやる気を出す生徒もいる。
- ・学習力の高い生徒には、プラスの教材を与えることがある。

何よりも「安心感のある授業」の構築が鍵だという意見に参加者は賛同した。そのあと、文科省配付「新学習指導要領に対応した外国語活動及び外国語科の授業実践事例映像資料DVD」を見て中学校での英語授業を話し合った。

第6回勉強会

12月11日(土)

■ 私の授業実践

寝屋川高等学校 北村 浩子 教諭



寝屋川高校では前任校と比べて、「オーラル・イントロダクション」「音読」といった英語での活動や生徒が中心になるペアワークやグループワークが増え、授業中に生徒が触れる英語の量が圧倒的に増加した。力を入れていることは、コンセプト・マップを描きながら概要を話し、本文の論旨をビジュアル化する。口頭応答での「考える」工夫として、「語・語法・英語表現の理解」と「コンテンツの理解整理・応用的思考」の両面からの発問を次の6段階に分類し、読みが深まるように1〜6へと順に問いかけている。

- | | |
|----------------------|-------------------|
| 1 Knowledge (知識) | 4 Analysis (分析) |
| 2 Comprehension (理解) | 5 Synthesis (統合) |
| 3 Application (適応) | 6 Evaluation (評価) |

また、アウトプットとしての要約を行うには、文法的・構文的な正確さが必要と考え、音読活動を強化した。最後に、意見構築からディスカッション活動を実施したことで、授業終了後の生徒アンケート結果から次のような成果が得られた。

「自分の意見を述べるために、テキストの読み方が変わったという生徒が、8割を超えていた。何度も読み返し、論理的に理解するようになった。語彙や表現について、自分が使って英文を作ること意識して学ぶようになった。テキストの理解が深まったと感じている生徒が全体の7割であった」

発表のあと参加者で話し合った。

○ 音読活動を強化することは英語理解やアウトプットにつながるか。

- ・音読は前から意味をとらせるので有効である。また、チャンクごとに読めると、意味のあるグループを意識できていることでしっかりと取り組むべき活動である。



- ・シャドーイングのチェックを昼休みなどに行い、発音やイントネーション等の指導行うことが大切である。
- ・英文を覚えることになり、使える英語につながる。

○ 3年生から文法指導が求められているとのことだが、文法指導はどうあるべきか。

- ・基本的に必要である。そうでないと文が書けない、話せない。
- ・生徒は一年生の時の文法授業には熱心でないのに、3年生になると入試を意識して文法指導を願うようになる。
- ・日本の英語教育は「罪深い文法指導」を行っている。中学校、高校、大学で同じ文法を何度もぐるぐると回ってやっている。

○ 塾での学習の影響が強いということだが。

- ・中学校、高校で塾に通っている生徒は、塾の学習法にひきずられ、問題演習型を望む生徒が多い。入試問題をやると生徒は落ち着いて熱心に取り組む。

- ・高校の授業料が無償化になって、その浮いたお金で塾に通う生徒が一層増えた。入試問題とつながらないことをやると内職をする生徒が生まれることもある。

など、参加者の話し合いはまだまだ盛り上がった。

そのあと休憩をはさんで、文科省配付のDVD(高校)4校分を編集した授業を見た。愛知県立千種高校の2年生英語Ⅱの授業に全員が感動した。淡々とした話しぶりではあるが、教材の整理、生徒とのやりとりによる論点のまとめ、リスニングの導入、ダブルリーディングの導入などとよく考えられているだけでなく、授業の終わりの教員の言葉にほっとする思いが残るすばらしい授業であった。



授業の玉手箱

ニュアンスの活用

中垣 芳隆

いずれの学校にかかわらず、日々授業で接する学生の中には短期間で成績を急速に伸ばす例に出会うことがままあります。本学でもそのような学生達と話をすると、将来の仕事に英語が必要であるからとか短期大学から4年制大学に編入学して将来は高校の英語の先生になりたいからとか、明確な目的がモチベーションとなっていることに改めて気づかされます。

ひとたび目的が明確になれば、今彼女たちを取り巻く状況の中で、英語の話し手を見つけるのはそう困難ではないし、ラジオでもテレビでも英語の時間があり…と英語の学習は他の外国語の学習よりはるかに便利という条件を上手に活用しています。

ある学生は、残念ながら既に放送終了となりましたが「英語でシャベラナイト」で英語表現の微妙なニュアンスに触れたのが記憶に残ると語っています。

ニュアンスと言えば、実際のコミュニケーションの場面で用いられ、日常会話のレベルでは、それほど複雑な表現が用いられているわけではありません。このことを利用して、ある場面についての不自然ではない状況を設定した上で、身近なふたつの表現を与え、どちらのほうが適切かと問うことを通して、意味の違いにアプローチすることは、文法事項や語句についての生徒の知的好奇心を高め、統語論や意味論の観点からも、英語を深く理解するうえでの重要な手立ての一つになると思われます。

次に、若干の例を挙げておきます。なお（ ）内はご参考までの記述です。

1. 昨今の景気の悪さに直撃されAさんの会社では仕事が少なく、何もすることがなく手持ちぶさたの日々を送っている。
Q: Aさんの今の状況を表すとすれば?
①: There's nothing to do.
②: There's nothing to be done.
(①は退屈であることがない。②はなすすべがない)
2. ボーナスをもらったAさん、欲しいと思っていた中古車を買って、自分の好きな色に塗り直した。
Q: このことを表現するとすると?
① He painted a used car.
② He painted a car used.
(①は中古車、②は使用中の車)
3. フーテンの寅さんは旅行ではなく「あてもなく」全国各地を渡り歩いている。
Q: では寅さんの旅を表現するとすれば?
① He is traveling.
② He is touring.
(①は「あてもなく、あちこち回る旅」、②は「名所旧跡を回る旅行」)
4. ゴルフ好きのGさん。暇さえあれば人前でも素振りの練習に熱中している。
Q: このGさんの行為を表現するとすれば
① He pretends to be a golfer.
② He pretends he is a golfer.
(①不定詞を従えたと行動、②の文を従えたと心的状態)
5. 友達の家に遊びに行き、ついつい長居をしてしまったAくん達。そろそろ帰らねばとA君が時計を見ながら言う言葉は?
① It's time we went.
② It's time for us to go.
(いずれもOK。①はもうその時間は少し過ぎている。②はちょうどその時間になった。)

参考文献: 田中実「英語のニュアンスおもしろ講座」(朝日イブニングニュース社)

書籍紹介

『英語リーディングの科学:「読めたつもり」の謎を解く』

卯城祐司 編著 (2009) 研究社 2,200円

言うまでもなく、「読む力」は重要である。折しも各国の高校1年生(15歳)が参加する学力到達度調査(PISA)において、日本の「読解力」の国別順位が昨年度改善したニュースが伝えられている。それでは、日本人が「英語で読む」とはどういうことか。非母語の英語で読むとなると、読めたつもりでも実は読んでいないことが往々にしてあるのではないか。本書は「読めたつもり」をなくすことを目的に、英語で“深く”理解するメカニズムを解き明かし、どのようなリーディング指導をすれば効果的かを具体的に提案してくれる良書である。

本書は、リーディングとは何か、語彙知識、構造的な理解や背景知識とはどのような関連があるのか、リーディングテストでは何を測ることができるのか、といった我々の問題意識に応えるために、理論と実践の両面から解説している。また、音読や「再話」などのアクティビティがどのように読解スキルを育むのかについての説明もあり、すぐにでも授業で実践してみたい気持ちになる。

日々教壇に立つ教師には「教師としての直感」があるが、経験に培われたそれらの直感をしばしば理論から検証してみることは貴重な機会になる。学習者のリーディング力を育成するためには、学習者の読みのプロセスを理解すること。そうでなければ、そのつまづきを把握した指導を行うことができないとする本書は、学習者が「英文をどのように読むのだろうか」「どのようなところで読み間違いだろうか」という視点の重要性を再認識させてくれる。

本書は、最先端の研究成果に基づいて新進気鋭の研究者たちによって執筆されているが、予備知識がなくても読める英語リーディング理論入門書である。「故郷の母親にもわかるように」また「本当におもしろいと思うことを書こう」と申し合わせた執筆者たちの筆致は科学的でかつ柔らかな。 (東條 加寿子)



編集後記・第7回勉強会(案内)

このnewsletterも第4号の発行となった。2010年4月教職課程開設以来、教職志望の学生に教師の仕事に対する使命感と豊かな人間性の育成に努めてきた。また、学校現場の先生と共に学び、実践的な教科内容展開を研究開発することをめざして、講習や勉強会を実施してきた。そうしたニュースを届けるべく、これからも年4回のペースで、皆様の役に立つ編集を心がけたい。今後ともよろしくお願いします。(ひ)

第7回勉強会予定
平成23年2月12日(土)

2010年11月末、グルー・バンクロフト基金主催の米国大学視察ツアーに参加し、Harvard, Yale, Wesleyan (University), Williams, Amherst, Smith (College)での施設・授業見学をされた、清水谷高校の富永先生に視察内容の報告をお願いしております。



大阪女学院大学・大阪女学院短期大学
教員養成センター Teacher-training Center

540-0004 大阪市中央区玉造2丁目26番54号
Tel: 06-6761-9371 Fax: 06-6761-9373

Homepage: <http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc>
e-mail: tto@wilmina.ac.jp